

高病原性鳥インフルエンザ発生時の地域の初動対応強化に向けた取組

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○佐藤宏樹 渡辺測子

当所管内には県内の半数の養鶏農家が存在。当所ではこれまで高病原性鳥インフルエンザ（AI）発生時に利用する消毒ポイントや集合施設の候補となる場所の選定と運営に関して協力体制を構築し、演習等により検証。その中で冬期における対応や手続等の整理など、運営面での課題が浮上したため各関係機関と連携し以下の取組を実施。冬期の対応として、消毒ポイントでは積雪時の作業を想定した配置、動線、除雪体制等を再調査し留意事項を集約するとともに運営に係る手順を整理し、実際の動力噴霧機を用いた動作訓練を冬季に実施。埋却では候補地までの除雪状況及び方法の確認に加え、担当機関及び業者と協力して地上部の刈払いを含めた埋却演習を実施。手続等の整理について、集合施設では作業内容及び搬入資材量の変更に伴う候補施設の対応性を調査し、対応が難しい施設については市町村と協議して、新たな候補施設を選定。地域での役割分担と連絡体制を見直し、担当者を決め、実際の候補施設を使って実施した県実動演習では、備蓄資材保管施設からの資材搬出時に混乱が予想されることが判明したため、搬入場所別に資材を整理し、配置図を作成し掲示。これらの取組により、当所の想定する防疫対応を各担当部署における実際の認識と精査することで、各防疫作業の枠組みをより鮮明にすることが出来た。